

ウスコミミガイ *Laemodonta exaratoidea* Kawabe

【選定理由】

本種は内湾域の転石地の深く埋もれた石の下面が生息環境である。打ち上げられた貝殻が知多半島の4カ所で採集されているが（河合,1999）、生息が確認されたのは蒲郡市西浦半島の先端部の転石地1カ所のみである（木村,2001）。その後の調査で、周辺に健全な個体群を確認した。本種の生息に適した環境は県内では必ずしも多くなく、もともと生息場所が少なかった可能性も高い。和田ほか（1996）では、危険とランクされている。



蒲郡市西浦, 1999年7月2日, 木村昭一 採集

【形態】

殻高約7mm、殻は卵形で殻表は短い針毛のはえた殻皮で覆われる。

【分布の概要】

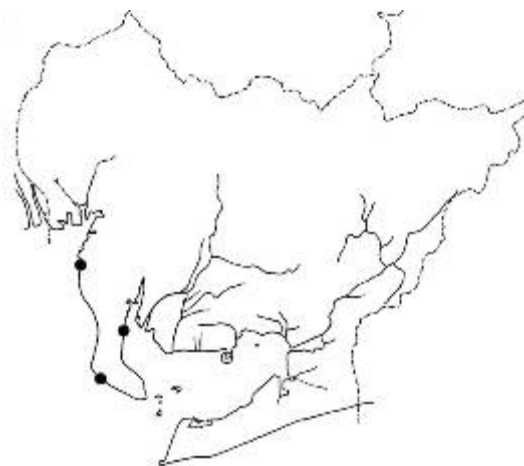
【県内の分布】

上述したように県内の生息場所は1カ所であるが、健全な個体群が確認された。今後内湾域の転石地をさらに調査すれば新たな生息地が発見できる可能性が高い。

【世界及び国内の分布】

日本と韓国。国内では本州東北地方以南、四国、九州、琉球列島に分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

内湾からやや外洋にかけての潮上帯転石地の深く埋もれた石の下面が生息環境である。元々愛知県には多い生息環境ではないが、伊良湖岬の様に海岸の護岸工事によって転石地特に潮上帯部分は陸地に近く破壊されやすい。

【保全上の留意点】

上述したような生息環境を破壊しない様、不必要な護岸工事をしない。

【引用文献】

河合秀高, 1999. 知多半島で得られたオカミミガイ類. かきつばた, 25: 12-13. 名古屋貝類談話会.

木村昭一, 2001. 蒲郡市西浦半島転石地のオカミミガイ科貝類. かきつばた, 27: 20-21. 名古屋貝類談話会.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

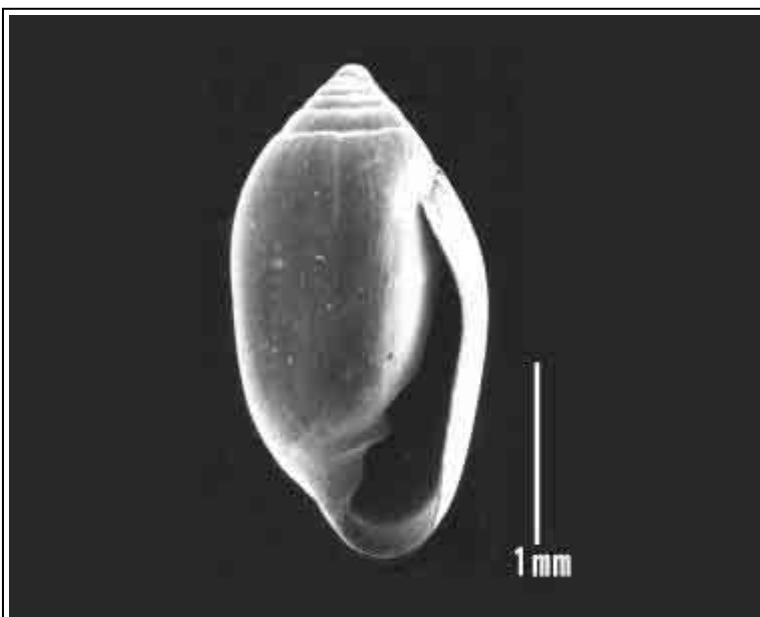
ナギサノシタタリガイ *Microtralia acteocinoides* Kuroda et Habe

【選定理由】

本県では汐川干潟の河口域に発達したアシ原湿地内のビニールシートの塊の下面より採集された (木村, 1994: 木村・木村, 1999)。打ち上げられた貝殻は知多半島 2 カ所から記録されている (河合, 1999)。本来は内湾からやや外洋にかけての潮上帯付近の転石地の深く埋もれた石の下面が生息環境である。蒲郡市西浦半島の先端部の転石地は本種に好適な生息環境が存在し、健全な個体群を確認した (木村, 2001)。本種の生息に適した環境は県内では必ずしも多くなく、もともと生息場所が少なかった可能性も高い。

【形態】

オカミミガイ科としては最も小型種で、殻長 4mm 程度と微小。殻は長い卵形で、白色半透明。



蒲郡市西浦半島, 1999 年 7 月 2 日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように県内には本種の生息環境が少なく、木村・木村 (1999) のほか、1999 年の調査で蒲郡市西浦半島先端部 (木村, 2001) に生息地を確認した。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。西太平洋に広く分布するとする説もあるが、全てが同一種かどうかは検討を要する。北海道南部から琉球列島まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】 の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

内湾からやや外洋にかけての潮上帯転石地の深く埋もれた石の下面が生息環境である。元々愛知県には多い生息環境ではないが、伊良湖岬の様に海岸の護岸工事によって転石地特に潮上帯部分は陸地に近く破壊されやすい。

【保全上の留意点】

上述したような生息環境を破壊しない様、不必要な護岸工事をしない。

【特記事項】

千葉県 (2000) では要保護動物にランクされている。

【引用文献】

- 河合秀高, 1999. 知多半島で得られたオカミミガイ類. かきつばた, 25: 12-13. 名古屋貝類談話会.
木村昭一, 1994. 汐川干潟 (愛知県) で採集されたナギサノシタタリガイ. 南紀生物, 36 (1): 75-76.
木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ペントス学会誌, 54: 44-56.
木村昭一, 2001. 蒲郡市西浦半島転石地のオカミミガイ科貝類. かきつばた, 27: 20-21. 名古屋貝類談話会.
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.

スジホシムシヤドリガイ *Nipponomysella subtruncata* (Yokoyama)

【選定理由】

本種は内湾河口域の砂泥干潟の底質中に深く潜って生息するスジホシムシモドキ(星口動物)の体表に付着して生息する微小な二枚貝。本県でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているので、本種と共生関係にあるスジホシムシモドキの生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。スジホシムシヤドリガイがスジホシムシモドキの体表に付着している割合は通常 1 割程度で、結果として県内では希少な貝類である。渥美半島北側の三河湾で 2 地点(愛知県,2005: 木村,2004)、蒲郡市三谷地先人工干潟(木村,2004)で生息が確認されたが、後者では 2004 年に生息が確認されただけで、その後生息が確認できない。

【形態】

殻長 2~4mm 程度で殻は白色で楕円形、殻頂部は後端にある。殻は薄く、殻表は平滑。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように、3 地点で生息が確認されているに過ぎない。生息地点数、生息数とも少ない。

【世界及び国内の分布】

日本。国内では房総半島以南九州まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも減少したと考えられる。

【保全上の留意点】

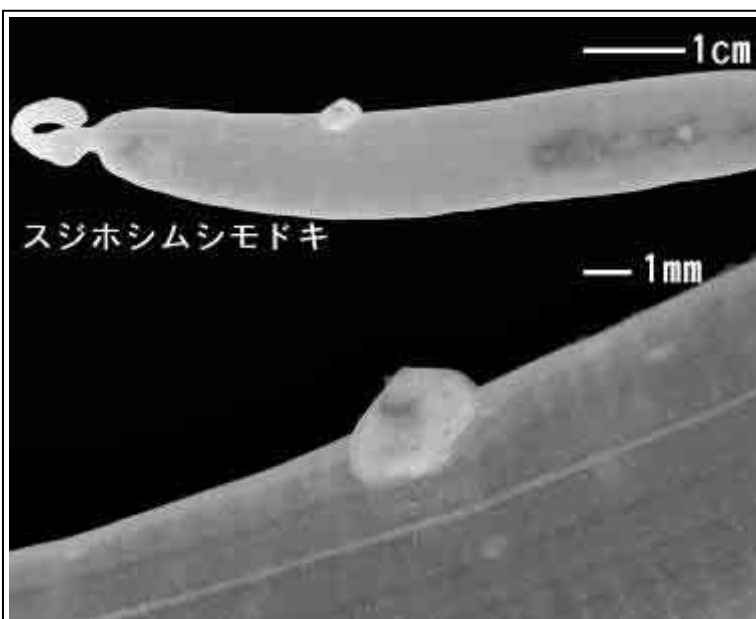
内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

今回新たにレッドリストに掲載された。

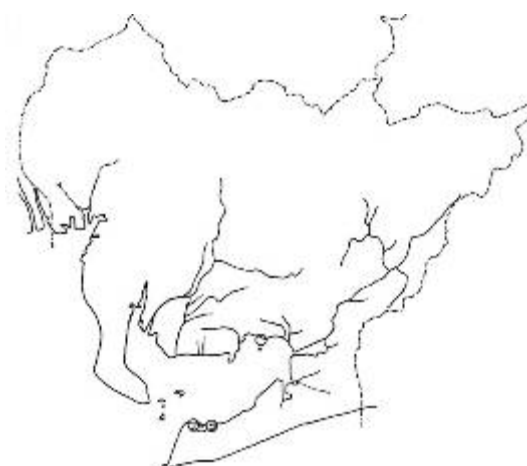
【引用文献】

愛知県, 2005. 沿岸生態系保全の考え方-干潟生態系を中心として-。
木村昭一, 2004. 蒲郡市三谷町人工干潟の貝類相. かきつばた, 30: 14-20. 名古屋貝類談話会。
木村昭一, 2005. 蒲郡市三谷町人工干潟の貝類相 続報. かきつばた, 31: 29-31. 名古屋貝類談話会。



蒲郡市三谷地先人工干潟, 2004 年 4 月 5 日, 木村昭一 採集

県内分布図



ベニガイ *Pharaonella sieboldii* (Deshayes)

【選定理由】

本種は湾口部から外洋に面した海岸の潮下帯の砂泥底に生息する。本県では内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯に棲む貝類相が著しく単純化している。本種も明らかに生息場所、生息数とも激減している。本種もかつては知多半島伊勢湾側、渥美半島外海側で新鮮な死殻が比較的多く打ち上げられていたが、近年はほとんど採集することができない。近年 3 年間で知多半島伊勢湾側をドレッジにより調査したが、生貝は採集されず、少数の死殻が採集されたにすぎない(木村,2000)。

【形態】

殻長約 6cm で、殻は前後に長く、特に後縁は吻状に長くのびて、右にねじれ、後端は尖る。殻はやや薄く鮮やかな桃色で、膨らみは弱く扁平。



三河湾湾口部(底引き網), 1980 年, 採集者不詳

【分布の概要】

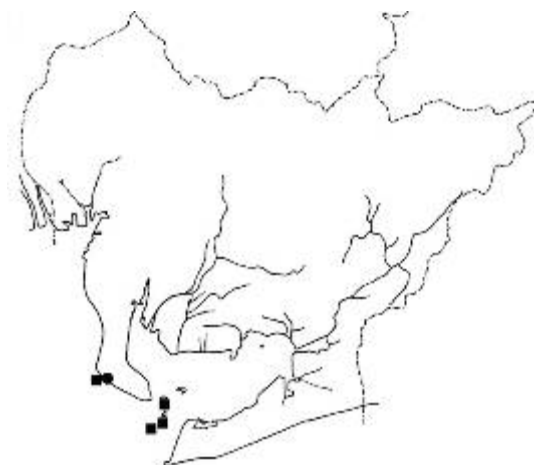
【県内の分布】

上述したように、生息場所、生息数が減少し、近年生貝が採集されない。本種はやや外洋性で、やや深い海底まで生息するので、渥美外洋の水深 20m より深い場所に生息域があるかもしれない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。北海道南部から九州まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】 の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも激減したと考えられる。近年生貝の採集記録がないので、危機的生息状況といえる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【特記事項】

葉山しおさい博物館 (2001) では消滅寸前にランクされている。

【引用文献】

葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.
木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.

イヨスダレガイ *Paphia (Neotapes) undulata* (Born)

【選定理由】

本種は内湾の潮下帯の砂泥底に生息する。本県でも潮下帯の環境も著しく悪化していて、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。本種は三河湾や伊勢湾で操業する底引き網漁船（トリガイ桁網）によって近年でも生貝が採集されるが、個体数は少ない。近年3年間で三河湾湾口部、知多半島伊勢湾側をドレッジにより調査したが、生貝は採集されなかった(木村,2000)。

【形態】

殻長約4cmで殻は前後に長い楕円形。殻はやや薄く、膨らみは弱い。殻表には光沢があり、殻頂部以外には赤紫褐色の放射状の網目模様がある。



三河湾口部(底引き網), 2000年3月5日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

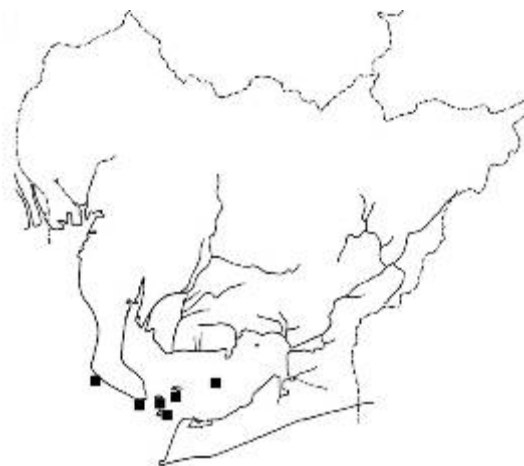
【県内の分布】

上述したように、生息場所、生息数が減少していて、生貝の個体数は少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、太平洋、インド洋。国内では房総半島以南琉球列島まで分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように潮下帯の環境は破壊されているので、本種の生息場所、生息数とも減少したと考えられる。現在でも生貝は採集されているが、個体数は少ない。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, 26: 18-20. 名古屋貝類談話会.

オキナガイ属の一種 *Laternula* sp.

【選定理由】

本種は前回、コオキナガイとして報告した種。コオキナガイと比較して殻の大きさが小さく、殻高が殻長に比べて小さいなどの特徴から別種と判明した。本種は自然環境が保たれた内湾の河口域や湾奥部の泥干潟に他の希少種と共に生息する。コオキナガイについては、愛知県はかつての分布域(千葉県, 2000: 葉山しおさい博物館, 2001: 和田ら, 1996) から考えると、生息していた可能性もあるが、愛知県産の標本や確実な記録が無く、今回は削除した。

本県でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる。本種は小型種でソトオリガイの幼貝と混同されているためか生息記録は非常に少ない。現在県内では汐川干潟の泥底に健全な個体群が残っているが、他の場所では死殻も稀である。



汐川干潟, 2001年8月5日, 木村妙子 採集

【形態】

殻長約 2cm で、殻は長楕円形で膨らみはやや強い。殻は白色で非常に薄く脆い。ソトオリガイと近似するが、殻が小型であること、後端が細まり尖る点で区別できる。

【分布の概要】

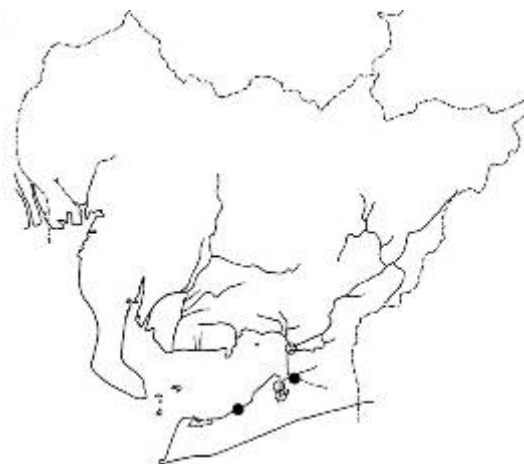
【県内の分布】

上述したように、生息場所、生息数が減少したと考えられ、現在 1 地点でのみ健全な個体群が確認されている。

【世界及び国内の分布】

本州は未記載種の可能性が高いので、情報は少ないが、日本固有種の可能性があり、九州西岸の内湾域などで本種と同種と思われる種が採集されている。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような干潟の環境は破壊されているため、本種の生息場所、生息数とも減少したと考えられる。

【保全上の留意点】

内湾の潮間帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.

千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編, 438pp.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

ゴマオカタニシ *Georissa japonica* Pilsbry

【選定理由】

本州以南八重山諸島まで広く分布する。湿度の良く保たれた自然林内の落葉下に生息する。県内では新城市（旧鳳来町）門谷でのみで生息が確認されている。微小種なので発見例が少ないことが考えられるが、いずれにしても県内の生息地が非常に少ないことは否定できない。生息地点が少なく、生息範囲があまりにも狭いので、絶滅が危惧される。

【形態】

殻高 2～3mm で微小。殻は淡橙色で、薄質、卵円形で各層はよくふくらむ。臍孔は滑層によって被われる。殻表にはやや強い螺肋がある。蓋は半円形で厚く石灰質。



静岡県富士郡芝川町峯, 1989 年 10 月 8 日, 早瀬善正 採集・撮影

【分布の概要】

日本固有種。本州以南、四国、九州、南西諸島に広く点々と分布する。県内では新城市（旧鳳来町）門谷でのみで生息が確認されている。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

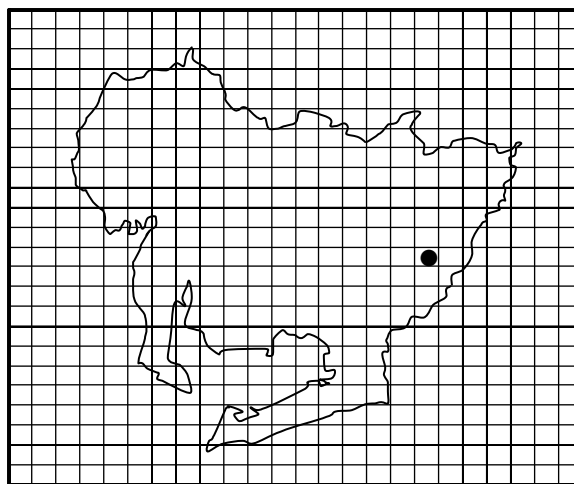
【現在の生息状況／減少の要因】

自然林の減少、生息地の乾燥化が原因と考えられる。

【保全上の留意点】

生息地の植生、地形を含めた包括的な保全が求められる。また希少種の継続的なモニタリングも必要である。

県内分布図



【特記事項】

今回新たにレッドリストに掲載された。

【関連文献】

- 野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, p.25. 愛知県郷土資料刊行会.
湊 宏, 1988. 日本陸産貝類総目録, p.32. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, p.23. 保育社.

トウカイヤマトガイ *Japonia katorii* Minato

【選定理由】

豊橋市石巻山を模式産地とするヤマトガイ属の1種で、サドヤマトガイに類似するが体層の毛状付属物は1列をめぐらすことで区別される。生息地、個体数とも少なく、良く保全された自然林内の落葉下に生息する。

【形態】

殻は薄質で小さく、低円錐形。殻表は汚赤褐色で螺層は5 1/2層で各層はよくふくらみ、螺竇はゆるやかに太くなる。縫合は深く顕著である。周縁上に毛状の殻皮付属物を1列めぐらす。殻口はほぼ円く、殻口縁は薄くて肥厚しない。臍孔は多少小さくて殻径の1/5を占める。蓋は円形で薄く角質で多旋型である。殻高4.4mm、殻径5.0mmである。



豊橋市石巻山, 2007年5月8日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

豊橋市石巻山、鳳来寺山、新城市（旧鳳来町）乗本、県外では静岡県浜松市鷺沢町、鈴鹿山脈に分布することが知られている。

【生息地の環境／生態的特性】

石灰岩地や雑木林の倒木や腐木の下や落葉中に生息する。

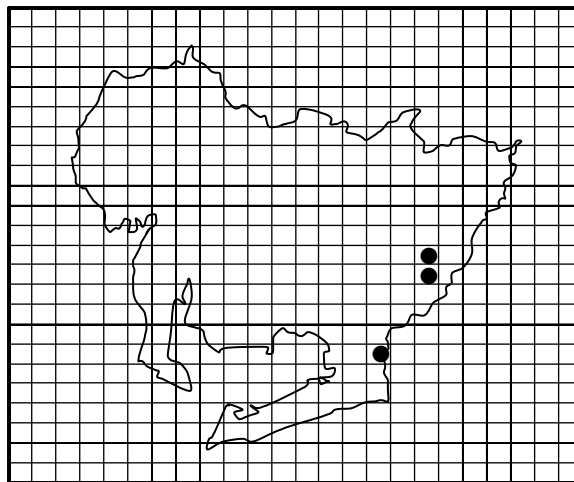
【現在の生息状況／減少の要因】

前記分布地に生息しているが、極めて稀産である。生息地の乾燥化の進行が減少の要因と考えられる。

【保全上の留意点】

生息地の倒木や腐木、落葉の保護に留意する。

県内分布図



【関連文献】

湊 宏, 1985. 日本産ヤマトガイ属の2種類. VENUS, 44 (2): 82-83. 日本貝類学会.
湊 宏, 1988. 日本陸産貝類総目録, p.8. 日本陸産貝類総目録刊行会.

ホラアナゴマオカチグサ *Cavernacmella kuzuensis* (Suzuki)

【選定理由】

最初化石種として発見されたが、その後石灰洞内の暗黒で水滴の滴る壁面に生息することが判った。生息環境が非常に特異で限定されている。また生息個体数も少ない。豊橋市嵩山の蛇穴の奥に生息する。

【形態】

殻は微小で、殻高 2mm、殻径 1.3mm、螺層は 4 1/2 層である。薄く半透明で淡い黄褐色。縫合は顕著で体層は著しく大きい。殻口は円い洋梨形、臍孔は狭く深い。蓋は薄く、少旋形で、核は中央にある。



豊橋市嵩山蛇穴中, 1989 年 5 月 14 日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

本州（愛知、京都、山口）、四国（高知）、九州、与論島～八重山に分布し、県内では豊橋市嵩山蛇穴の洞内に生息する。

【生息地の環境／生態的特性】

石灰洞内の暗黒で水の滴る壁面に生息し、そのため眼は退化している。

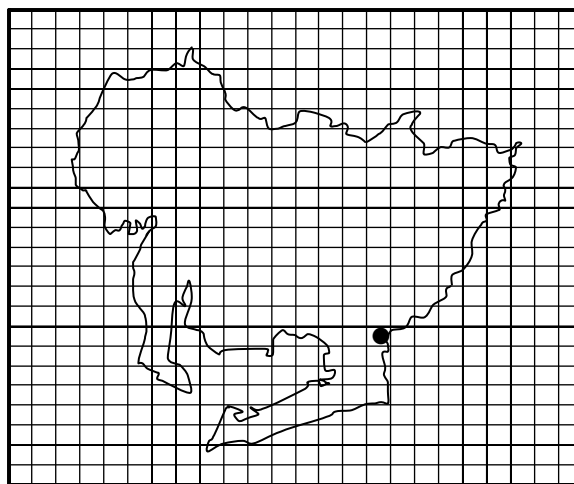
【現在の生息状況／減少の要因】

嵩山蛇穴の洞内に僅かに生息している。トンネル工事の影響でしみ出る水量が減少して、洞内の壁が乾燥化の影響を受けている。

【保全上の留意点】

洞内へ自由に出入り出来るため、観光者が洞内で食事をしたりして非常に荒らされている。このような行為は慎むべきである。

県内分布図



【関連文献】

- 波部忠重, 1942. ホラアナゴマオカチグサ（新稱）の現棲個体に就いて. *VENUS*, 12 (1, 2): 28-32. 日本貝類学会.
野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, p.25. 愛知県郷土資料刊行会.
湊 宏, 1988. 日本陸産貝類総目録, p.32. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, p.23. 保育社.

ケシガイ *Carychium pessimum* Pilsbry

【選定理由】

本種は湿度の保たれた自然林内の落葉堆積中に生息する微小な陸産貝類で、近似種にニホンケシガイ *Carychium nipponense*、スジケシガイ *Carychium noduliferum* があるが、本種は最も生息地が少ない。本県でも本種は岡崎市（旧額田町）閼苅溪谷、豊田市御船町（守谷, 2004）の2地点でしか記録されていない。そのうち後者では生貝が1個体採集されたに過ぎない。

【形態】

殻高約 1.5mm、殻は細く白色半透明。ニホンケシガイと殻の大きさなどが近似するが、殻表に繊細な成長脈が密にあり、殻表が平滑で光沢の強いニホンケシガイとは明確に区別できる。スジケシガイは殻高が約 2.5mm で日本産ケシガイ類では、最も大型で、区別は容易である。



静岡県天城峠, 2008年6月24日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

日本固有種で、本州、四国に広く分布する。県内では、上述したように生息場所はわずか2地点で、殻が微小なことを考慮しても生息が確認されている場所は少ない。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

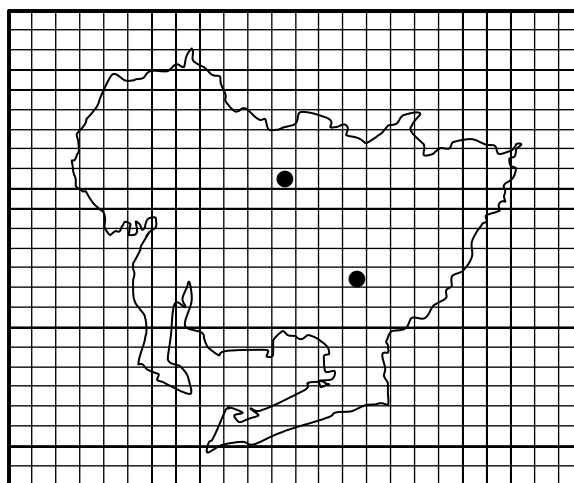
【現在の生息状況／減少の要因】

【選定理由】の項参照。

【保全上の留意点】

自然林の伐採等生息環境の改変を防止する。

県内分布図



【関連文献】

- 野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, p.30. 愛知県郷土資料刊行会.
東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, pp.89-90. 保育社.
守谷茂樹, 2004. 豊田市の陸貝の現況. かきつばた, 30: 27-33, 名古屋貝類談話会.

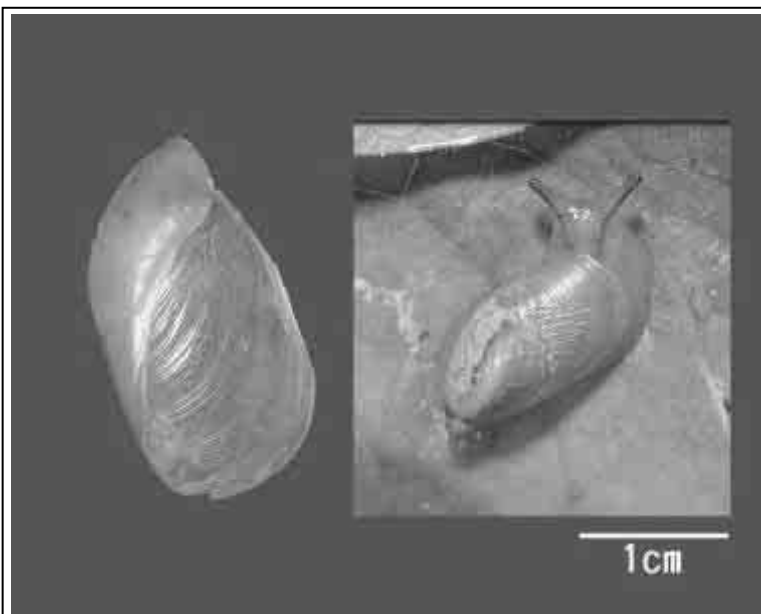
ナガオカモノアラガイ *Oxyloma hirasei* (Pilsbry)

【選定理由】

陸生貝類ではあるが、湖沼、小川などの水辺のマコモ等の挺水植物の茎や葉に着生するオカモノアラガイの一種である。近年平野部の水辺は改変されたり、護岸工事されることが多く、近年本種の生息場所が著しく減少している。

【形態】

殻は薄く、紡錘形。殻高12.5mm、殻径6.5mm、2 1/2層。淡水産のモノアラガイを少し引き伸ばした形で、殻口は肥厚しない。眼は触角の先についている。体層が全長のほとんどを占める。



蒲郡市西田川河畔, 2005年4月13日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

関東地方から九州地方に分布する。県内でも各地の池沼河川の水辺に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

河川池沼の岸のマコモ等の挺水植物の茎や葉に着生し、発生に著しいむらがある。

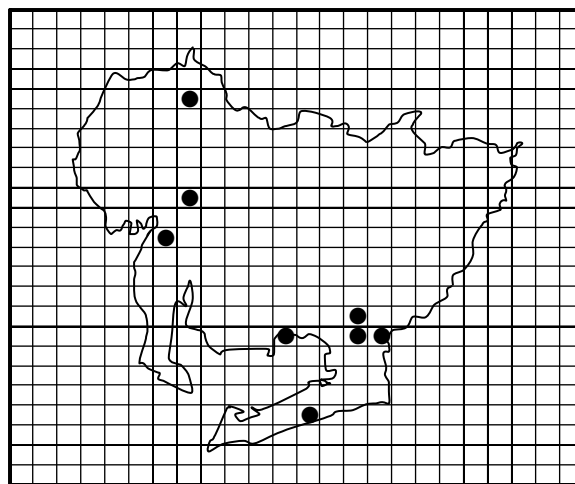
【現在の生息状況／減少の要因】

県内各地の池沼の水辺のマコモ等の茎葉に生息するが、生息地が急激に狭められて、聚楽園の大仏前の池のマコモにたまに見られる程度である。河川改修や池沼の改修埋め立て等による生息地の減少が原因と考えられる。

【保全上の留意点】

河川池沼の挺水植物を刈り取らないで保全することが望ましい。

県内分布図



【特記事項】

環境省では準絶滅危惧種にランクされている。

【関連文献】

- 野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, p.26. 愛知県郷土資料刊行会.
湊 宏, 1988. 日本陸産貝類総目録, p.72. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, p.73. 保育社.

ミカワギセル *Mesophaedusa hickonis mikawa* (Pilsbry)

【選定理由】

本種は三重県中部、愛知県東部、静岡県西部に分布する中型のキセルガイで、幡豆郡三ヶ根山を模式産地とする。原名亜種のコンボウギセルとはミカワギセルの殻が小型であること、強い縦肋が発達することなどで区別される。山地から平野部まで点々と分布するが、寺社林や谷沿いの自然林内の落葉、朽木や礫の下に生息している場合が多い。産地による貝殻の変異が大きく、愛知県内でも数タイプに分けることができる。模式産地の三ヶ根山では自然林の伐採によって、嵩山の石灰岩地では乾燥化によって個体数が著しく減少している。本種の生息地は現在も少なくはないが、上述のような生息状況の悪化は多くの生息地で認められる。

【形態】

殻高 15～23mm 程度で産地によって変異が大きい。殻は細長く、螺層数 7～9 層。成長脈が強い縦肋に発達する。主襞と 3～4 の腔襞がある。

【分布の概要】

三重県中部、愛知県東部、静岡県西部に分布する。県内では渥美半島、西尾市より東の三河部、北限は面ノ木峠周辺。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

【選定理由】の項参照。

【保全上の留意点】

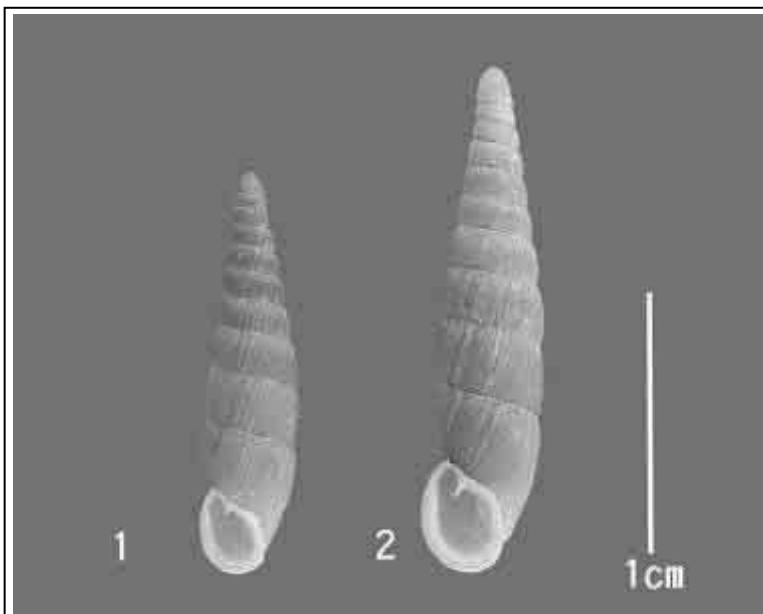
自然林の伐採等生息環境の改変を防止する。

【特記事項】

今回新たにレッドリストに掲載された。

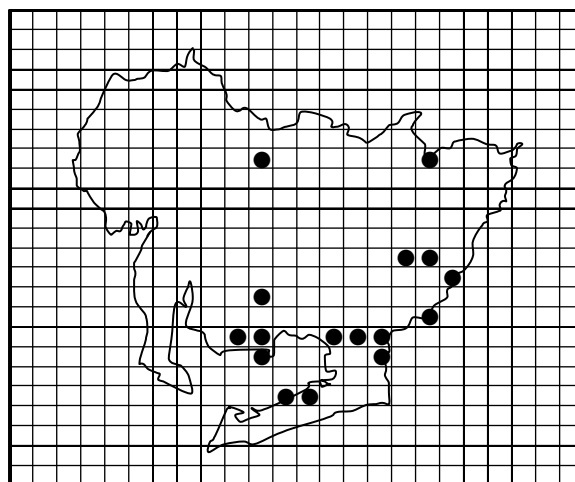
【関連文献】

野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, p.30. 愛知県郷土資料刊行会.
湊 宏, 1994. 日本産キセルガイ科貝類の分類と分布に関する研究, pp.187-188. 日本貝類学会.
東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, pp.89-90. 保育社.



1 : 豊橋市嵩山町, 2006 年 9 月 20 日, 木村昭一 採集
2 : 額田郡幸田町, 2008 年 2 月 16 日, 木村昭一 採集

県内分布図



オクガタギセル *Mundiphaedusa dorcas* (Pilsbry)

【選定理由】

「愛知県の陸貝相」（天野，1938）に「ドルカキセル？ 三河小馬山」と記録され、天野の死後、小馬山の位置が不明で不明種とされていたが、豊田市（旧旭町）駒山小馬寺と判明した。その後、豊根、段戸山、稲武、面ノ木、和市、新城市（旧鳳来町）名号と生息地が発見されたが、近年の自然林の減少に伴い急速に生息地を減少させている。

【形態】

殻はやや細長く、殻高 35mm、殻径 6.5mm、11 1/2 層、主壁は長い、上腔壁より下腔壁はわずかに短い。殻表に線状があり、殻口はやや広い。



豊根村三沢, 1989 年 5 月 5 日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

石川県白山から関東の山岳地帯に分布する。県内では前述のように北設山岳地帯に点々と分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

山地の沢や河川の岸など湿度の高い落葉下に生息する。

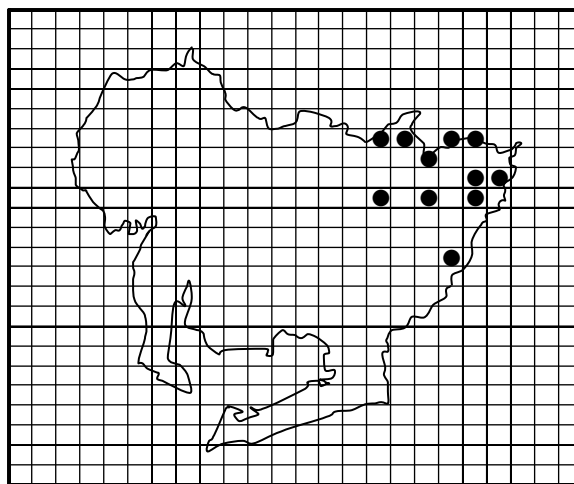
【現在の生息状況／減少の要因】

新城市（旧鳳来町）名号では道路拡張工事で絶滅したものと考えられ、他の産地でも著しく減少している。

【保全上の留意点】

生息確認地を中心とした樹林や沢筋の保全に留意する。また、採取の防止に努める。

県内分布図



【特記事項】

本県は本種の分布南限に当たる。

【関連文献】

- 天野景従, 1966. 愛知県の陸貝相. 東海高校研究紀要 4: 6.
 豊根の動物調査委員会, 1980. 貝類. 愛知県豊根村の動物, p.116. 豊根村.
 野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, p.29. 愛知県郷土資料刊行会.
 三河野生動物研究会, 1993. 鳳来町のオクガタギセルガイ. 三河の野生生物 No.2.
 木村昭一・中根吉夫, 1996. 稲武町の軟体動物. 稲武町史 - 自然- 資料篇, pp.119-126. 稲武町.
 中根吉夫・木村昭一, 1996. 設楽町の軟体動物. 設楽町誌『自然編』『資料編』, pp.225-234. 設楽町.
 名古屋貝類談話会, 1979. ご機げんいが愛知の陸貝. 駒山の小馬寺. かきつばた, 5.
 名古屋貝類談話会, 1990. 東海地方の貝類現状調査報告書 (17) 駒山. かきつばた, 16.
 東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, p.69. 保育社.

トノサマガセル *Mundiphaedusa ducalis* (Kobelt)

【選定理由】

1979年に豊根村が動物調査を実施した際、茶臼山中腹の礫土の中から6個体が観察され、その後1991年に稲武町誌作成のための調査で面ノ木峠にて再発見された（木村・中根，1996）。豊根村茶臼山が分布の東限であり、面ノ木峠はその南限である。その後、茶臼山でも面ノ木峠でも再発見されていない。

【形態】

殻高 29～30mm、殻径 7～7.5mm の中型のキセルガイである。殻の色はわら色である。殻口はやや広大で洋梨形、乳白の滑層で覆われる。月状襞はないが、上腔襞は短くつづいて数個が点線状で、下腔襞は短い。



稲武町面ノ木峠, 1991年10月22日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

石川県（白山）、岐阜県、福井県に分布する。県内では茶臼山と面ノ木峠が知られているのみである。

【生息地の環境／生態的特性】

礫土に落葉が被った環境で生息する。

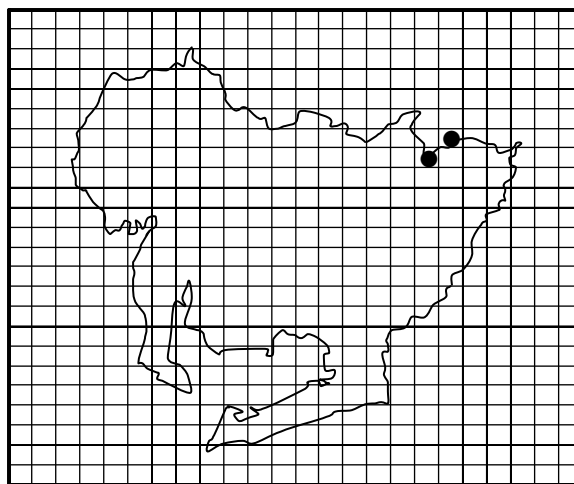
【現在の生息状況／減少の要因】

県内ではその後再発見されていない。

【保全上の留意点】

生息確認地を中心とした樹林の保全に留意する。また、採集の防止に努める。

県内分布図



【特記事項】

本県は本種の分布南限に当たる。

【関連文献】

- 柴田吉夫, 1995. 北設山岳県立公園一帯の自然科学. 北設山岳県立公園及びその付近の陸産貝類, p.75. 愛知県商工部通商観光課・北設山岳県立公園地区協議会・鳳来寺山県立公園地区協議会.
 豊根の動物調査委員会, 1980. 貝類. 愛知県豊根村の動物, p.116. 豊根村.
 野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, p.28. 愛知県郷土資料刊行会.
 木村昭一・中根吉夫, 1996. 稲武町の軟体動物. 稲武町史 -自然- 資料篇, pp.119-126. 稲武町.
 東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, p.68. 保育社.

ハチノコギセル *Mundiphaedusa kawasakii* (Koroda)

【選定理由】

愛知県豊橋市石巻山、嵩山を
模式産地とするキセルガイで、
その生息数も著しく減少傾向に
ある。

【形 態】

殻は中形で殻高 20mm 内外、
殻径 5mm、螺層 11、重厚堅固
不透明の殻質で帯黄白色の薄い
殻皮は蝕害されていない場合が
多い。殻は円筒状のずんぐりし
た紡錘形で、螺頂部は急に細く
なる。



豊橋市石巻山, 1989 年 5 月 28 日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

石巻山、嵩山の特産種とされていたが、広
く三河東部から静岡県西部に分布することが
明らかになった。

【生息地の環境／生態的特性】

石灰岩地の礫間に生息するが、必ずしも石
灰岩地のみではない。岩礫地の落葉下を好む
が、余り群れを作らない。

【現在の生息状況／減少の要因】

石巻山、嵩山を始めとしてその分布地では、
もともと稀産種であった上、ここ数年の乾燥
化傾向で稀産の度を高めている。

【保全上の留意点】

生息確認地を中心とした樹林や岩礫地の保
全に留意する。また、採取の防止に努める。

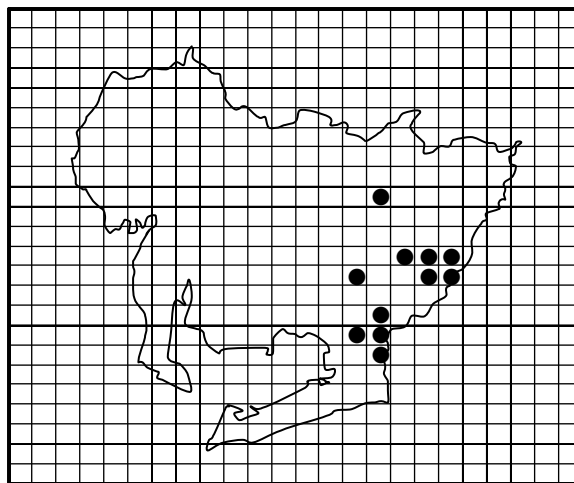
【特記事項】

愛知県を模式産地とするキセルガイの 1 種
であるとともに、名古屋の故川崎義令氏の発
見した貝でもある。ツメギセルガイ東海道型
との類縁関係が論議されているが、ツメギセ
ルガイの方は殻頂部がハチノコギセルよりやや細い傾向がある。環境省では準絶滅危惧種にランク
されている。

【関連文献】

- 柴田吉夫, 1995. 北設山岳県立公園一帯の自然科学. 北設山岳県立公園及びその付近の陸産貝類, p.81. 愛知県商工部通商観光
課・北設山岳県立公園地区協議会・鳳来寺山県立公園地区協議会.
吉田博士祝賀記念誌論文篇, 1939. 三河石巻山嵩山(スセ)の陸貝相, pp.675-677.
天野景従, 1966. 愛知県の陸貝相. 東海高校研究紀要 4: 6.
愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物, p.151.
野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, p.28. 愛知県郷土資料刊行会.
増田 修・波部忠重, 1989. 静岡県陸淡水産貝類相, pp.30-34. 東海大学自然史博物館
鳳来寺山自然科学博物館, 1973. 鳳来寺山・自然と文化・鳳来寺山の陸貝, p.84.
中根吉夫・木村昭一, 1996. 設楽町の軟体動物. 設楽町誌『自然編』『資料編』, pp.225-234. 設楽町.
東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, p.63. 保育社.

県内分布図



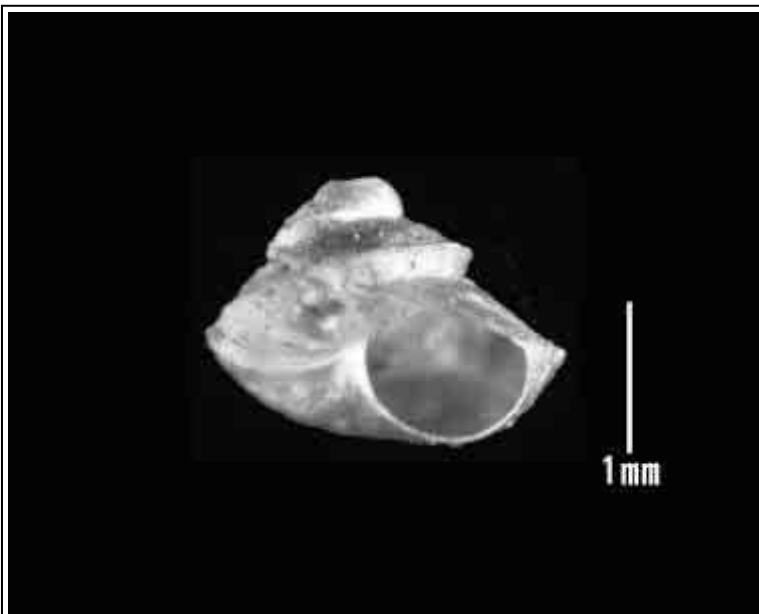
カサネシタラガイ *Sitalina insignis* (Pilsbry et Hirase)

【選定理由】

本県では鳳来寺山不動堂付近で死殻が記録された（矢野，1990）が、その後の採集記録も非常に少ない。

【形態】

体層周縁の角は著しく、殻表に螺条がない。殻高 1mm、殻径 1.7mm、4 層の微小な陸産貝類である。



北設楽郡設楽町，2008 年 6 月，早瀬善正 採集・撮影

【分布の概要】

本州、四国、九州に分布するが、産地は局限されている。

県内では鳳来寺山、設楽町で採集されているが、生息情報は著しく少ない。

【生息地の環境／生態的特性】

やや湿気を含む落葉内に生息する。

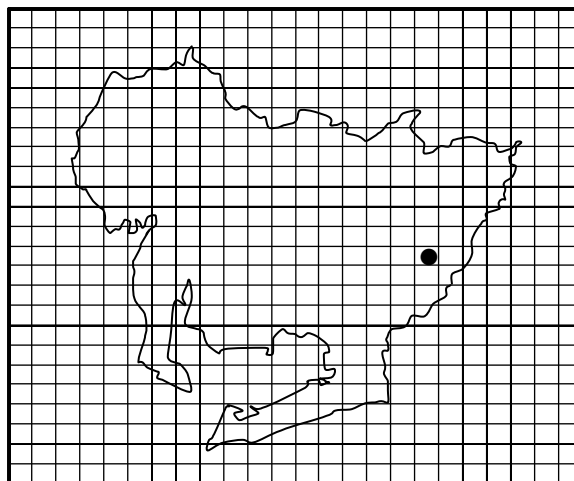
【現在の生息状況／減少の要因】

記録後再確認されていないため、最初の確認地では死滅したものと考えられる。

【保全上の留意点】

生息確認地を中心とした樹林の保全に留意する。また、採取の防止に努める。

県内分布図



【関連文献】

矢野重文，1990. 知多半島から蒲郡・鳳来寺・豊橋へ. かきつばた，16: 10. 名古屋貝類談話会.
鳳来寺山自然科学博物館，1999. 鳳来町の貝類相の再検討. 鳳来寺山自然科学博物館館報 28: 85.
東 正雄，1982. 原色日本陸産貝類図鑑，p.110. 保育社.

クチマガリマイマイ *Aegista cavicollis* (Pilsbry)

【選定理由】

全国的にも準絶滅危惧種にランクされているが、特に愛知県知多半島はその分布の東限である。

【形態】

殻は小形で、殻高 4mm、殻径 6mm、6 1/2 層を数える。黄褐色。螺塔はふくらんだ円錐形。殻表はビロード様で、殻口は著しく下降して、上唇が殆ど水平となり、少し狭まった歪円形、唇縁は薄く少し反転する。臍孔は広く深い。



美浜町奥田, 1998 年 10 月 29 日, 河辺訓受 採集

【分布の概要】

近畿、中国東部に分布する。愛知県知多半島の知多市大興寺や美浜町奥田、野間にも生息することが確認された。

【生息地の環境／生態的特性】

知多市大興寺では竹林に生息している。美浜町奥田大己貴神社ではこんもりとした森の下、落ち葉の多い湿気のある中に生息していた。

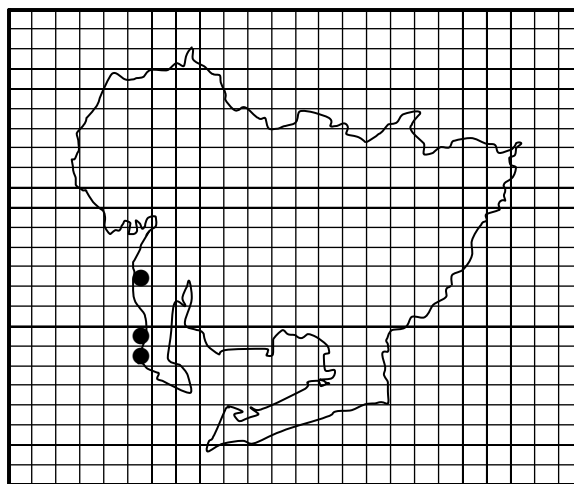
【現在の生息状況／減少の要因】

愛知県では知多半島の 3 カ所から生息が確認されている。

【保全上の留意点】

生息確認地の森や竹林とその落葉を保全することが重要と考えられる。

県内分布図



【特記事項】

環境省では準絶滅危惧種にランクされている。

【関連文献】

- 天野景従・中山 清, 1958. 北知多の自然. 中部日本自然科学調査団報告, 中日新聞社.
矢野重文, 1990. 知多半島から蒲郡・鳳来寺・豊橋へ. かきつばた, 16:10. 名古屋貝類談話会.
野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, p.35. 愛知県郷土資料刊行会.
東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, pp.145-146. 保育社.
湊 宏, 1988. 日本陸産貝類総目録, p.166. 日本陸産貝類総目録刊行会.

フチマルオオベソマイマイ *Aegista tumida* (Gude)

【選定理由】

近畿南部に分布するオオベソマイマイの1種で比較的稀産である。愛知県はその分布の東限である。

【形態】

殻は小形で、殻高9mm、殻径13～15mm、6層。淡褐色。周縁に淡色帯がある。螺塔は低い円錐形である。成長脈は明らかで、殻口は少し下降し、円形。唇縁は僅かに広がり白色でやや反転する。臍孔は広くて深い。



田原市藤七原, 2001年4月1日, 河辺訓受 採集

【分布の概要】

大阪府、奈良県、和歌山県、三重県に分布する。愛知県田原市（旧渥美郡田原町）にも生息する。

【生息地の環境／生態的特性】

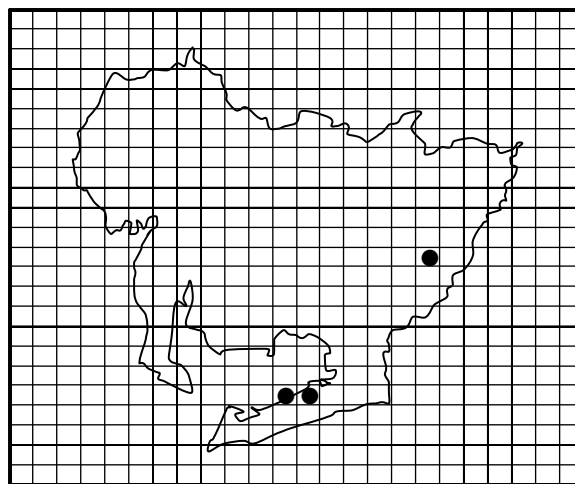
田原市（旧田原町）では城跡の空堀の斜面の落葉の中に生息したが、改築工事で消滅した。田原市（旧田原町）藤七原では湿地の周辺の雑木林の中、白谷では石灰岩地の神社の落葉中に生息していた。

【現在の生息状況／減少の要因】

県内では田原市（旧田原町）藤七原、白谷に分布している。しかし発生に極端なむらがあり、乾燥に弱い。雨期の間の高温多湿の折りに活動するようである。三重県神島には比較的多産する。

近年の乾燥傾向による周辺の乾燥化が減少の要因と考えられる。

県内分布図



【保全上の留意点】

生息確認地周辺の乾燥化防止に留意する。

【特記事項】

環境省では準絶滅危惧種にランクされている。

【関連文献】

野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, p.34. 愛知県郷土資料刊行会.
湊 宏, 1988. 日本陸産貝類総目録, p.155. 日本陸産貝類総目録刊行会.
東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, p.141. 保育社.

イシマキシロマイマイ *Trishoplita calcicola* Kuroda, in Masuda et Habe

【選定理由】

愛知県豊橋市石巻山を模式産地とする陸産貝類で、古くから知られていたが、1989年に増田・波部によって新種記載された。アオキ・クサギ等の低木の樹上や葉裏に生息する。年による変動もあるが、近年極度に減少して稀産となった。

【形態】

殻高 7mm、殻径 14mm、螺層 6、右巻き半透明灰白色の薄い殻を持っている。



豊橋市石巻山, 1989年5月28日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

模式産地は石巻山であるが、嵩山を始め静岡県静岡市大谷、引佐町気賀、三岳山にも分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

二次林中のアオキ・クサギ等の低木の樹上や葉裏に生息する。

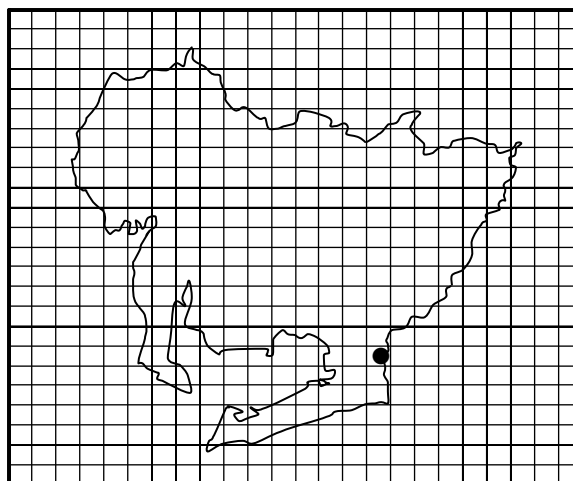
【現在の生息状況／減少の要因】

発見当時は小灌木の樹上に多産したが、その後次第に減少傾向をたどり、現在では極めて少産で稀産に近い。

【保全上の留意点】

生息確認地（石巻山・嵩山）を中心とした二次林の保全に留意する。また、採取の防止に努める。

県内分布図



【特記事項】

環境省では準絶滅危惧種にランクされている。

【関連文献】

- 柴田吉夫, 1995. 北設山岳県立公園一帯の自然科学. 北設山岳県立公園及びその付近の陸産貝類, p.81. 愛知県商工部通商観光課・北設山岳県立公園地区協議会・鳳来寺山県立公園地区協議会.
野々部良一・高桑 弘・原田一夫, 1984. 陸産貝類. 愛知の動物, p.36. 愛知県郷土資料刊行会.
増田 修・波部忠重, 1989. 静岡県陸淡水産貝類相, pp.54-55. 東海大学自然史博物館
東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, p.222. 保育社.

ヒルゲンドルフマイマイ *Trishoplita hilgendorfi* (Kobelt)

【選定理由】

県内では熱田神宮、定光寺、石巻山、嵩山に分布するが、産地により若干の差異が認められる。近年著しく減少傾向にあり、絶滅が危惧される。

【形態】

帯紫褐色～淡黄色で、低円錐形の薄い殻を持つ。殻高 8mm、殻径 11.5mm、5 1/2～3/4 層、臍穴がある。石巻山・嵩山に産するものは弱い周縁角があり、螺塔がやや高い。オオヒルゲンドルフマイマイとして区別されることもある。



名古屋市熱田神宮, 2002 年 8 月 17 日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

伊吹山、藤原岳に分布する。石灰岩地帯に地方種オオヒルゲンドルフマイマイが知られている。

県内では前記の熱田神宮、定光寺に分布し、鳳来寺山医王院にも生息記録がある。知多半島山海地区にはやや多産するようである。

【生息地の環境／生態的特性】

よく茂った二次林中の低木の樹上に生息する。

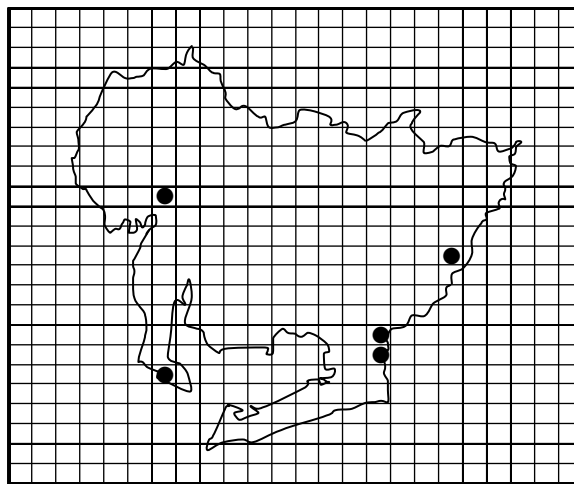
【現在の生息状況／減少の要因】

県内では山海地区を除いて生息数は稀産である。

【保全上の留意点】

生息確認地を中心とした二次林の保全に留意する。また、採取の防止に努める。

県内分布図



【関連文献】

- 中根吉夫, 1965. 東奥三河の陸産貝類, p.212.. 天竜・奥三河自然公園調査団.
吉田博士祝賀記念誌論文篇, 1939. 三河石巻山嵩山(スセ)の陸貝相, p.678.
天野景従, 1966. 愛知県の陸貝相. 東海高校研究紀要 4: 11-12.
愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物, p.36.
鳳来寺山自然科学博物館, 1993. 鳳来寺山の陸貝(2). 鳳来寺山の自然誌.
東 正雄, 1982. 原色日本陸産貝類図鑑, p.154, 221. 保育社.

マルタニシ *Cipangopaludina chinensis laeta* (v.Martens)

【選定理由】

タニシ科貝類は県内にヒメタニシ、オオタニシと本種が分布している。本種は海に近い平野部の水田や用水路などにかつては食用にするほど多産し、最も親しみのある淡水貝であった（紀平,1990）。近年では水質汚濁、農薬散布、用水路の改修、水田の乾田化のため生息地、生息数とも著しく減少した。木村（1994）では、5 地点のみで生息が確認されたにすぎず、そのいずれでも生息数が少ない。その後、知多半島先端部の休耕田、額田郡の小河川でまとまった個体数の生息を確認したが、このような生息地はほとんど残されていないと思われる。

【形態】

成貝では殻高 6cm に達するが、通常 3~4cm 程度。各螺層は丸く膨れ、縫合は深くくびれる。殻は薄く壊れやすい。蓋は革質で赤褐色。オオタニシと区別が難しい個体もあるが、胎殻がソロバン型のオオタニシとは異なり周辺の角が弱い。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように県内での生息場所は著しく減少し、生息数も少ない。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島に分布。国内では北海道南部から九州、沖縄諸島に分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

かつての水田に多産したので、水質汚濁、農薬散布、用水路の改修、水田の乾田化などの影響の少ない水田を含めた低湿地には現在も比較的多くの個体が生息する。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような生息地がほとんど残されていない。



県内分布図



【保全上の留意点】

水質の浄化、無秩序な護岸工事を避けることは当然であるが、水質汚濁、農薬散布、用水路の改修、水田の乾田化などの影響の少ない水田を含めた低湿地の保全が不可欠である。

【特記事項】

千葉県（2000）では一般保護生物にランクされている。

【引用文献】

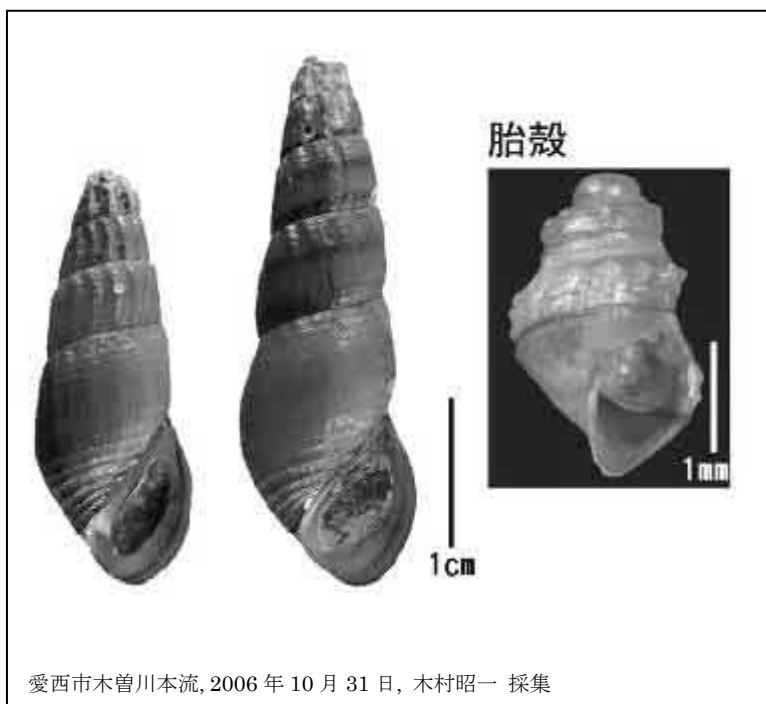
- 紀平 肇, 1990. 琵琶湖淀川淡水貝類. 131pp. たたら書房.
木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究集報(第 33 報): 14-34. 全国高等学校水産教育研究会.
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.

クロダカワニナ *Semisulcospira kurodai* Kajiya et Habe**【選定理由】**

カワニナ科貝類は県内にカワニナ、チリメンカワニナと本種が分布している。3種とも河川に分布しているが、本種は最も下流側に分布している。河川の下流域やその支流の流れのやや緩やかな場所に生息する。県内河川下流域はほとんどの場所で生息環境が悪化しているため、生息場所も少ない。本種の県内における生息場所は木村（1994）を含めて現在9地点しかない。

【形態】

カワニナ科貝類は個体変異や地域変異が著しく、カワニナ、チリメンカワニナとは親の貝殻だけで区別することはかなり難しい。殻長は4cm程度でカワニナよりやや殻が細長く棍棒状で、殻底の肋が強くその数は6本程度で少ない。胎児殻（体内に保有している個体）は他の2種が濃い茶褐色であるのに対して本種は淡いクリーム色で殻長2mmを越す個体もあり他の2種と比べて大きい。



愛西市木曽川本流, 2006年10月31日, 木村昭一 採集

【分布の概要】**【県内の分布】**

上述したように県内の生息場所は少ない。ただし、豊川本流下流域、木曽川本流下流域（木村, 2006）では、広い範囲にわたって生息地があり、生息数も多い。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。静岡県西部から岡山県にかけて分布する。

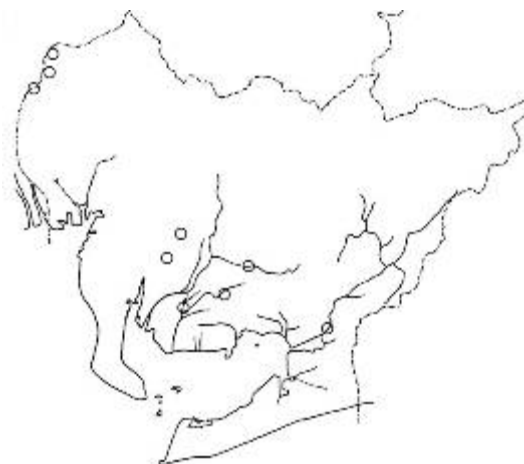
【生息地の環境／生態的特性】

カワニナ科貝類はホタルの餌生物として有名で、周知の通り水質の良い河川に生息する。前述のように本種はカワニナ科では最も下流に生息し、流れの緩やかな場所を好む。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述の通り県内河川下流域は生息環境の破壊が著しく、生息場所、生息数が減少している。

県内分布図

**【保全上の留意点】**

上述したような河川下流域の環境保全が必要である。

【特記事項】

岐阜県（2001）では準絶滅危惧にランクされている。

【引用文献】

岐阜県, 2001. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生動物. 350pp.

木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究集報(第33報): 14-34. 全国高等学校水産教育研究会.

木村昭一, 2006. 愛知県におけるミズゴマツボの産出記録. かきつばた, 32: 22-25. 名古屋貝類談話会.

モノアラガイ *Radix auricularia japonica* Jay

【選定理由】

モノアラガイ科貝類は県内にヒメモノアラガイ、コシダカヒメモノアラガイ、ハブタエモノアラガイと本種が分布しているが、在来種は本種のみと考えられる。本種は平野部の池沼や水田、川の淀みなどの水草や礫に付着している（紀平,1990）。近年では水質汚濁、農薬散布、用水路の改修のため生息地、生息数とも著しく減少した。木村（1994）では、4 地点のみで生息が確認されたにすぎず、そのいずれでも生息数が少ない。自然環境下では生息数が少ない。しかし、人為的な養魚池などに多くの個体が繁殖することが確認されている。

【形態】

殻高約 2cm に達しモノアラガイ科としては大型種。体層がよく発達し殻口は大きく広く開く。種螺塔は低い。殻は半透明で薄く壊れやすい。蓋はない。



名古屋市港区, 2002 年 8 月 5 日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

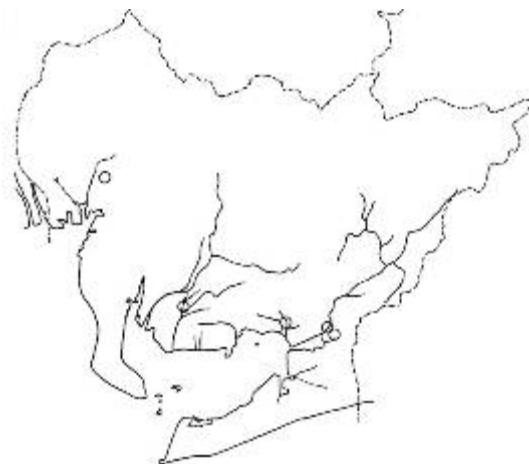
【県内の分布】

上述したように生息場所は著しく減少した。また生息数も少ない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。北海道から九州に分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

【選定理由】の項参照。

【保全上の留意点】

平野部の湖沼や河川下流域の水質の浄化、無秩序な護岸工事を避けることは当然であるが、水質汚濁、農薬散布、用水路の改修などの影響の少ない水田を含めた低湿地の保全が不可欠である。

【特記事項】

千葉県（2000）では一般保護生物にランクされている。

【引用文献】

- 紀平 肇, 1990. 琵琶湖淀川淡水貝類. 131pp. たたら書房.
木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究集報(第 33 報): 14-34. 全国高等学校水産教育研究会.
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.

ドブガイ *Anodonta woodiana* (Lea)

【選定理由】

本種の属するイシガイ科貝類は河川の下流域や平野部の用水路などの緩やかな流れで底質が砂泥底で水質の良い場所を生息場所としている。県内ではこのような場所はほとんど破壊されてしまったため、1960年代には広い分布を持ち多産したイシガイ科貝類全体（愛知県科学教育センター, 1967）の生息が危機的状況である。本種はイシガイ科貝類としては比較的水質の悪い河川やため池などにも生息できるため、県内における生息場所は木村（1994）を含めて現在約15カ所確認されている。

【形態】

日本産イシガイ科貝類としては大型で、河川に生息する個体は殻長10cm程度であるが、湖沼産の個体は大型になり殻長20cmを超える個体も稀ではない。生息場所によって殻の大きさや形態も大きく変異する。よくカラスガイと呼ばれることがあるが、本種には主歯も後側歯もなく後側歯のあるカラスガイとは全くの別種である。



安城市鹿乗川, 1990年1月22日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

県内では河川下流域や平野部の小川や用水路の生息環境は壊滅的で木村（1994）では8カ所で生息が確認された。河川下流域での生息場所は限られているが、平野部から丘陵地に点在するため池などに生息地点が見つかり、現在15カ所で生息が確認されている。今後このようなため池を調査すればかなり多くの生息場所が発見されると思われる。

【世界及び国内の分布】

シベリア、中国、朝鮮、インドシナに分布。国内では北海道から九州の河川下流域、湖沼に分布する。

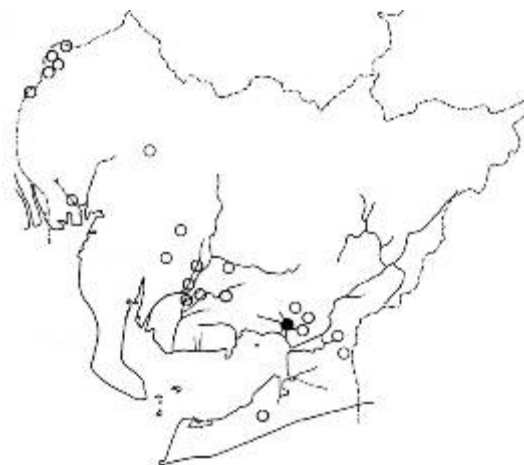
【生息地の環境／生態的特性】

上述したように河川の下流域や平野部の用水路などの緩やかな流れで底質が砂泥底で水質の良い場所を生息場所とするほか、平野部のため池などに生息している。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述の通り生息地の破壊が深刻で絶滅が危惧される。

県内分布図



【保全上の留意点】

水質の浄化、無秩序な護岸工事を避けることは当然であるが、イシガイ科貝類はグロキディウム幼生の時期にヨシノボリのような底生淡水魚類に寄生しなければ成長できない。従って他の淡水生物を含めた生息環境の保全が不可欠である。

【特記事項】

貝殻では区別が困難であるが、現在ドブガイとしている中に少なくとも2種以上が存在していることが生化学的研究で明らかになっている（田部ほか, 1994）。本県の個体についても分類学的な検討が必要である。

【引用文献】

- 愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.
木村昭一, 1994. 東海地方の淡水貝類相. 研究彙報(第33報): 14-34. 全国高等学校水産教育研究会.
田部雅昭・福原修一・長田芳和, 1994. 淡水産二枚貝ドブガイに見られる遺伝的II型. 日本貝類学会誌 Venus, 53 (1): 29-35.

ウミナ *Batillaria multiformis* (Lischke)**【選定理由】**

本種の属するウミナ科貝類は本県にホソウミナ、ウミナ、イボウミナの3種があり、ともに内湾の泥干潟の表面に生息している。東京湾や三浦半島ではホソウミナ以外の2種に著しい減少傾向が認められる(千葉県,2000: 葉山しおさい博物館,2001)。本県でも干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる(木村・木村,1999)。また生息場所が直接破壊されなくても減少する例が確認されており(千葉県,2000: 葉山しおさい博物館,2001) 注意を要する。和田ほか(1996)では、危険とランクされている。

【形態】

殻高約3cmの塔型で殻は厚く、よく成長した個体の殻口は肥厚し、内唇の滑層は肥厚する。ホソウミナと近似するが殻が太く、内唇の滑層が肥厚する点で区別できる。

【分布の概要】**【県内の分布】**

上述したように生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村(1999)を含めて現在10カ所である。生息場所では群生し個体数は多い。特に汐川干潟では大きな個体群が残されている。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。北海道南部から九州まで分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような泥干潟が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

【保全上の留意点】

上述したような泥干潟を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【特記事項】

水産資源保護協会(1995)では減少傾向にランクされた。千葉県(2000)では最重要保護動物にランクされている。葉山しおさい博物館(2001)では消滅寸前にランクされている。

【引用文献】

葉山しおさい博物館,2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.

木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌 54: 44-56.

水産資源保護協会, 1995. 軟体動物. 日本の希少な野生水産物に関する基礎資料(II), 131pp.

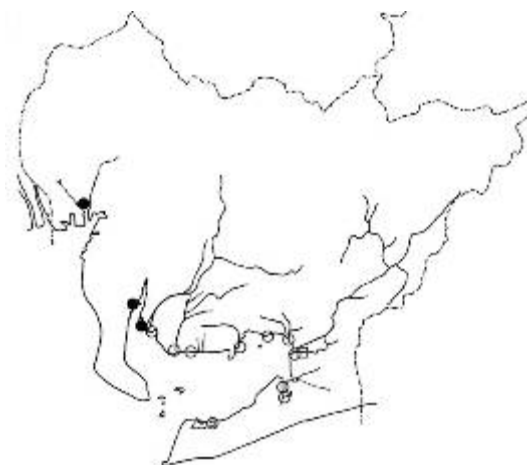
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.

和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.



幡豆郡鳥羽干潟, 2001年7月15日, 木村昭一採集

県内分布図



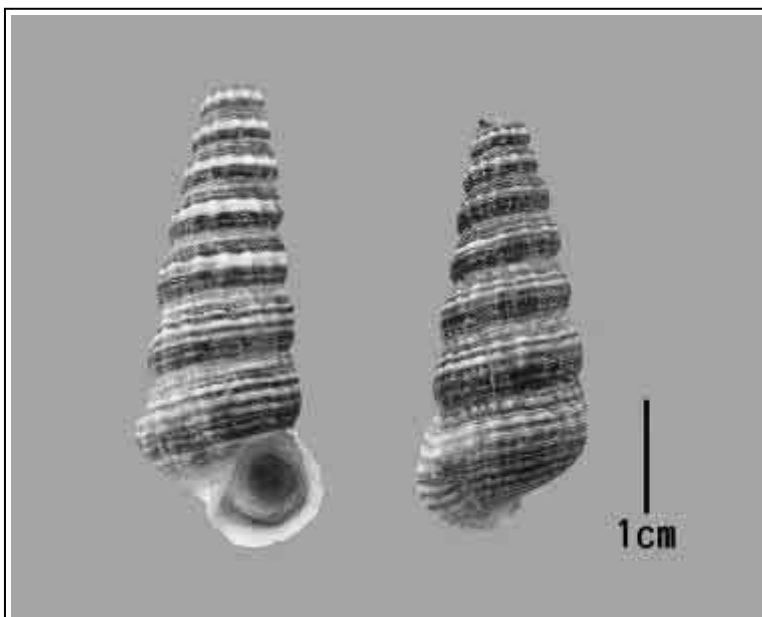
フトヘナタリ *Cerithidea (Cerithidea) rhizophorarum* A.Adams

【選定理由】

本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地周辺に生息し、特にアシ原群落内に高密度で生息する。本県ではアシ原湿地という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる(木村・木村,1999)。和田ほか(1996)では、危険とランクされている。

【形態】

殻高約 4cm の円筒形で殻頂部分は成長にともなって欠落する。殻表は粗い布目状で殻口は反転して肥厚する。蓋は円形で革質。



幡豆郡鳥羽干潟, 2001 年 7 月 15 日, 木村昭一採集

【分布の概要】

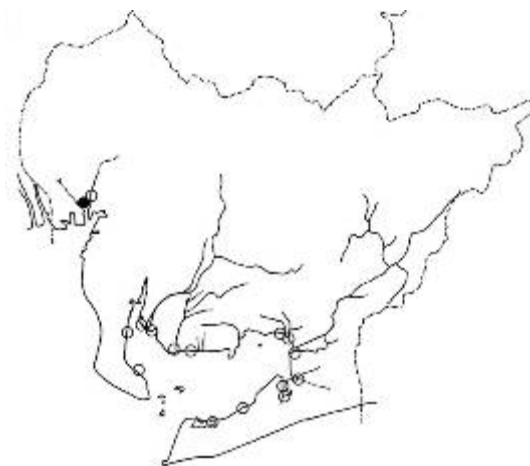
【県内の分布】

上述したように生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村(1999)を含めて現在 13 カ所である。現在でもアシ原湿地が残されていれば、かなりまとまった個体数が生息しており(庄内川河口域を除く)、特に三河湾汐川干潟では大きな個体群が残っている。

【世界及び国内の分布】

インド太平洋に広く分布。国内では東北以南以南琉球列島に分布する。琉球列島の個体はイトカケヘナタリと呼ばれ別亜種とされているが、別種の可能性もある。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

上述したようにアシ原湿地、特にアシ原群落内に多く生息する。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したようなアシ原湿地が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

【保全上の留意点】

上述したようなアシ原湿地を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【特記事項】

千葉県(2000)では最重要保護生物にランクされている。葉山しおさい博物館(2001)では消滅にランクされている。

【引用文献】

- 葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.
木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌 54: 44-56.
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

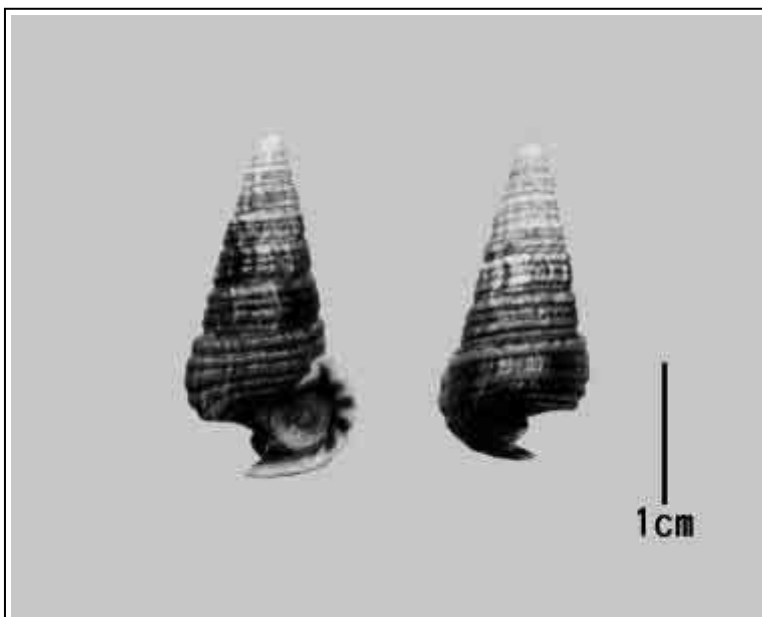
ヘナタリ *Cerithidea (Cerithideopsis) cingulata* (Gmelin)

【選定理由】

本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地周辺やそれより下部の泥干潟の表面に生息する。本県ではアシ原湿地や泥干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる（木村・木村,1999）。和田ほか（1996）では、危険とランクされている。

【形態】

殻高約 3cm の塔型で、よく成長した個体の殻口は肥厚し、外唇は下部が水管部へのびる。



汐川干潟, 2001 年 8 月 5 日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村（1999）を含めて現在 7 カ所である。生息場所では群生し、個体数は多い。特に汐川干潟では大きな個体群が残されている。

【世界及び国内の分布】

インド太平洋に広く分布する。国内では東京湾以南琉球列島まで分布する。

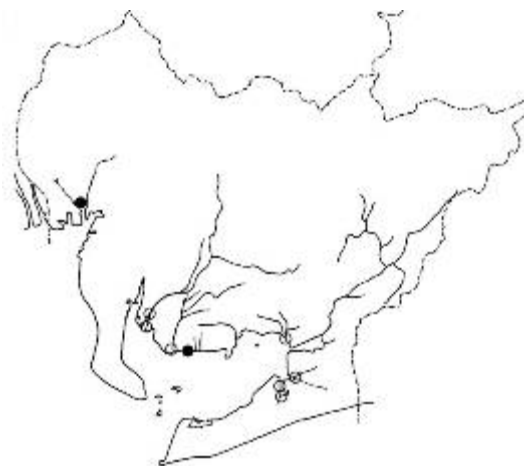
【生息地の環境／生態的特性】

県内では上述したようなアシ原湿地周辺やそれより下部の泥干潟の表面に生息している。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したようなアシ原湿地や内湾奥の泥干潟が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

県内分布図



【保全上の留意点】

上述したようなアシ原湿地や泥干潟を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【特記事項】

千葉県（2000）では最重要保護生物にランクされている。葉山しおさい博物館（2001）では消滅にランクされている。

【引用文献】

- 葉山しおさい博物館, 2001. 相模湾レッドデータ 貝類, 104pp.
木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌 54: 44-56.
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

カワグチツボ *Iravadia (Fluviocingula) elegantula* (A.Adams)

【選定理由】

本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地周辺やそれより下部の泥干潟の表面に生息する。本県ではアシ原湿地や泥干潟という生息環境自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため、本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる（木村・木村,1999）。和田ほか（1996）では、危険とランクされている。

【形態】

殻は殻長約 5mm と小型で、長卵形。臍孔は狭いが開く、蓋は革質で薄い。近似種のワカウツボとは臍孔が開く点、殻が薄い点などで区別される。



汐川干潟, 2001 年 8 月 5 日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村（1999）を含めて現在 7 カ所である。生息場所では群生し、個体数は多い。

【世界及び国内の分布】

日本、沿海州、中国、朝鮮に分布する。国内では青森県以南九州までに分布する。

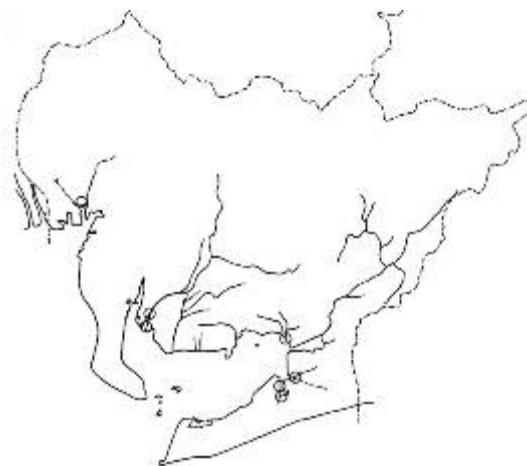
【生息地の環境／生態的特性】

県内では上述したようなアシ原湿地周辺やそれより下部の泥干潟の表面に生息している。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したようなアシ原湿地や内湾奥の泥干潟が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

県内分布図



【保全上の留意点】

上述したようなアシ原湿地や泥干潟を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【特記事項】

千葉県（2000）では一般保護生物にランクされている。

【引用文献】

- 木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌 54: 44-56.
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

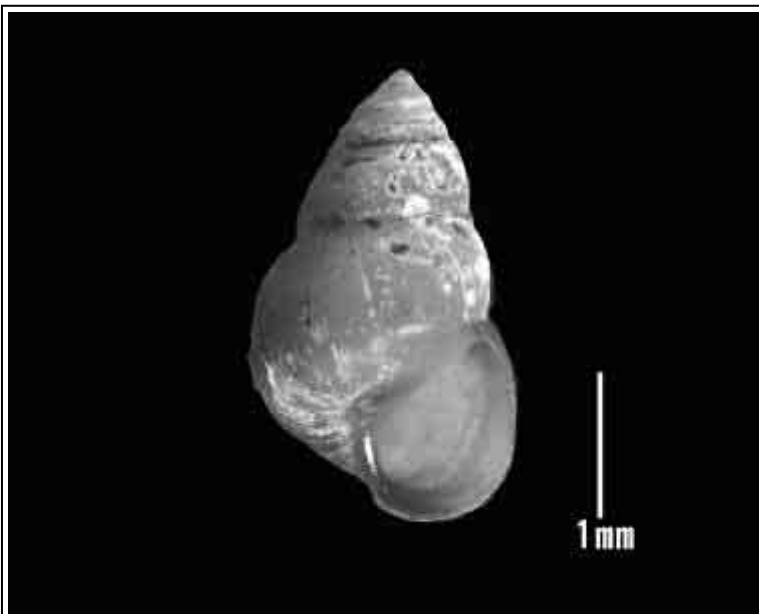
クリイロカワザンショウ *Angustassiminea castanea* (Westerlund)

【選定理由】

本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地周辺に分布する。本県ではアシ原湿地自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているため本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる（木村・木村,1999）。

【形態】

殻高約7mm 殻径約3mmの小型種。カワザンショウガイ科は小型種が多く形態的にも近似していて同定は難しい。本種は螺塔が高く、貝殻が濃い栗色であることが特徴である。小型の個体は、ヨシダカワザンショウやサツマクリイロカワザンショウと区別が難しいが、臍孔がないことでヨシダカワザンショウと足の色彩が黒褐色であることでクリーム色のサツマクリイロカワザンショウと区別できる。



汐川干潟, 2001年8月5日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

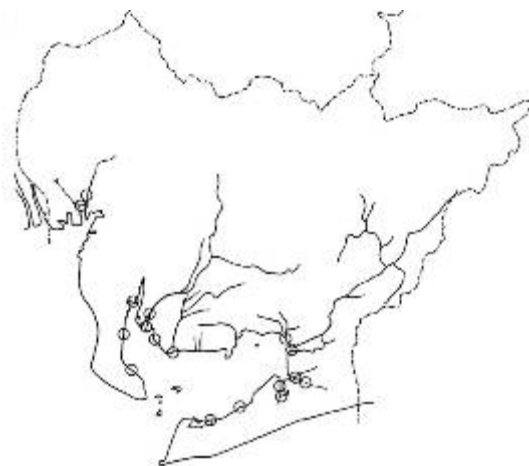
【県内の分布】

上述したように生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村（1999）を含めて、15カ所生息地がある。生息地では群生する。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。東北地方から九州にかけて分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

上述したようなアシ原湿地周辺の落葉の下や湿った土壌の表面に生息する。湿度が高いときにはアシに登る。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したようなアシ原湿地が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

【保全上の留意点】

上述したようなアシ原湿地と上部の陸上植生を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【引用文献】

木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌 54: 44-56.

ムシヤドリカワザンショウ *Assiminea parasitologica* Kuroda

【選定理由】

本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地周辺に分布する。本県ではアシ原湿地自体が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているので本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる（木村・木村,1999）。和田ほか（1996）では、危険とランクされている。

【形態】

殻高約 6mm の小型種。カワザンショウガイ科は小型種が多く形態的にも近似していて同定は難しい。本種は螺塔がやや高く、貝殻の色彩が赤く、縫合付近に黄色い帯が入るので区別できる。臍孔はない。



汐川干潟, 2001 年 8 月 5 日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

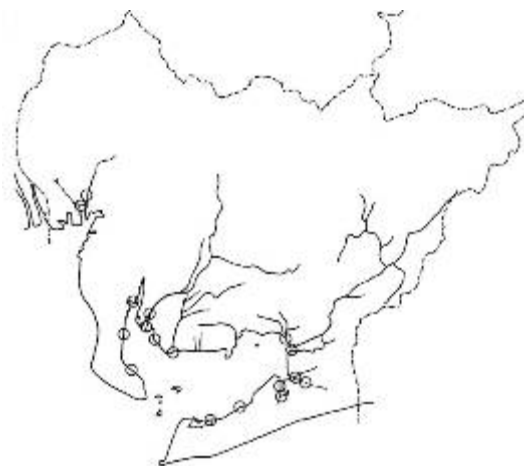
【県内の分布】

上述したように生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村（1999）を含めて、15カ所生息地がある。生息地では群生する。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。本州北部以南から九州にかけて分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

上述したようなアシ原湿地周辺の落葉の下や湿った土壌の表面に生息する。湿度が高いときにはアシに登る。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したようなアシ原湿地が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

【保全上の留意点】

上述したようなアシ原湿地と上部の陸上植生を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【特記事項】

千葉県（2000）では一般保護動物にランクされている。

【引用文献】

- 木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌 54: 44-56.
千葉県, 2000. 千葉県の保護上重要な野生生物 千葉県レッドデータブック動物編. 438pp.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

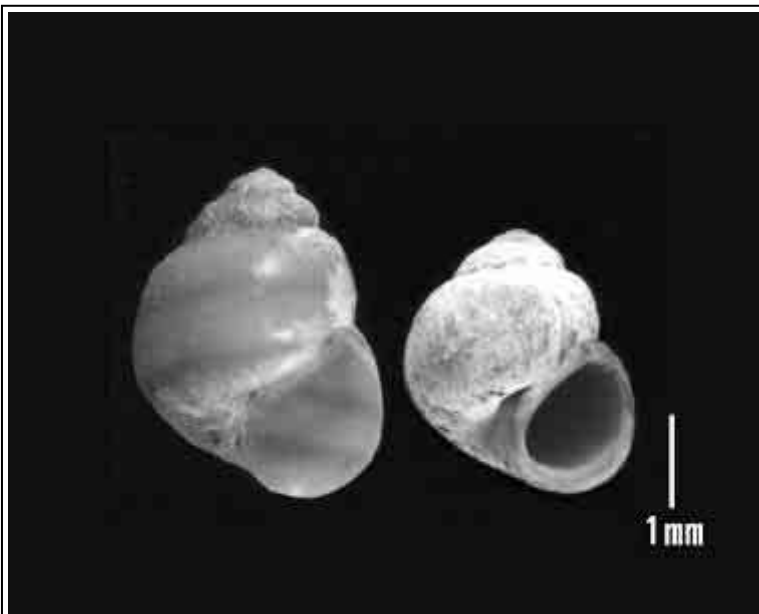
ツブカワザンショウ *Assimineea estuarina* Habe

【選定理由】

本種は内湾奥の河口域に発達したアシ原湿地周辺に分布する。本種はアシ原内より下部の砂利や転石があるところに多い。本県ではアシ原湿地やその周辺が護岸工事や埋め立てで著しく減少しているので本種の生息地、生息数とも著しく減少したと考えられる（木村・木村,1999）。和田ほか（1996）では、危険とランクされている。

【形態】

殻高約 4mm の小型種。カワザンショウガイ科は小型種が多く形態的にも近似していて同定は難しい。本種はカワザンショウガイ（特に小型の個体）と近似するが、殻質が厚く、螺塔は低く球形、狭いが臍孔が開く。



宝飯郡佐奈川河口, 1998 年 3 月 11 日, 木村昭一 採集

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように生息場所は著しく減少したと考えられ、木村・木村（1999）を含めて、3カ所生息地がある。生息地では群生するが、その範囲は狭い。

【世界及び国内の分布】

日本固有種。房総半島以南の本州から九州にかけて分布する。

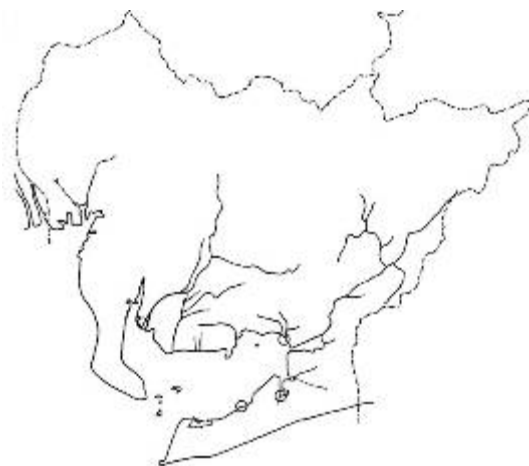
【生息地の環境／生態的特性】

上述したようなアシ原湿地周辺の砂利や転石上に生息する。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したようなアシ原湿地やその周辺が護岸工事などで破壊され、生息地が減少している。

県内分布図



【保全上の留意点】

上述したようなアシ原湿地と周辺部を保全することはいうまでもなく、周辺水域の水質も保全する必要がある。

【引用文献】

木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌 54: 44-56.
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.